

言葉のセンス磨いて

武庫川女子大「オトナのための日本語塾」

本年度の講座、28日開講

何げなく使っている言葉の使い方や言い回しなどについて考える講座「オトナのための日本語塾」の受講生が、昨年度の研究成果をレポート集にまとめた。類義語の使い分けや現代用語などについて、使用実態を基に考察している。

人が参加し、7人がそれぞれ決めたテーマで書き上げた。「むく」「はがす」「はぐ」などの類義語に着目した参加者は、日常での使い分け方を比較。アンケートなどをして、若者言葉の「めつちや」や、「超〜」と「爆〜」の違いについてまとめた研究もある。

同講座は武庫川女子大言語文化研究所(西宮市池開町)で研究員の佐竹秀雄さん(68)が塾長を務め、計5回開催。50〜70代の男女13

B5判、34頁。同研究所で無料配布しており、佐竹さんは「日常から言葉の使い方についてセンスを磨いておくことで、意思疎通がよりスムーズになる。言葉に敏感になってもいい」と話している。

回は28日午前10時半〜午後0時半。希望者はメール(jic@muiko.sawa-u.ac.jp)より21日までに申し込む。同研究所☎07988・45・33536 (斉藤絵美)



受講者たちが仕上げたりレポート集を手にする佐竹秀雄研究員(左)と岸本千秋研究員(右) 西宮市池開町、武庫川女子大